

未来にむけて、出雲から ————— 世界・信頼・縁むすび

# 第1回 神在月 縁むすび世界大会



- 平成7年 11月23日(祝)午前9時30分~
- 会場／くにびきメッセ 国際会議場他 (パーティ会場／松江東急イン)

主催

やおよろず  
世界八百万委員会

## CONTENTS 目次

開催趣旨	3
日程	4
心と体をいやすやすらぎのメッセージ	5
基調講演①	6
講師プロフィール	7
基調講演①メモ	8.9
基調講演②	10
講師プロフィール	11
基調講演②メモ	12.13
パネルディスカッション	14
コーディネータープロフィール	15
パネラープロフィール	16.17
パネルディスカッションメモ	18~21
分科会	22
座長プロフィール	23
コメンテータープロフィール	24.25
分科会メモ	26~30

## 未来にむけて、出雲から 世界・信頼・縁むすび

人類は今激動の20世紀から21世紀へと移り変わる時期を迎えてます。この世紀末にあたり世界の多くの国々は、今世紀を振り返り、歴史を学び、そして、反省や教訓から新しく飛躍するための国家論、世界観を再構築する作業を進めています。しかし、多くの国際問題に関しては、国家間の見解は行き違いのままであり、共通の接点は未だに見いだしていません。地球も、時代も、潮流も大きくきしんでいます。我々は、この「きしみ」から本音を聞き取り、複雑な地域・国内・国際問題が解決できない根本的な原因は、「人間どうしの信頼関係がまだ築かれていないため」ということに気づきました。

縁むすびで伝統のある出雲地区に住む我々は、再び、天・地・歴史(人)から賦与された使命を自覚し、心のニューディール計画を立案し、当地の人、水、食と調和された自然環境を、「出会い、議論、チャンスそして創造」の場として世界の人々に提供します。出会いと議論の中から新しい時代の構想を練り、未来へ向かっての共通目的を語り合う中から具現するための目標をさぐります。そして、心の主都づくり、人のネットワークの構築を目指すこととリンクした新しい情報文化事業の創出を促します。これにより既存産業の活性化や、人物の発掘、人材の育成が進み、創業者が輩出され、この土地に活気とグローバル化がもたらされます。そして、得られた成果を人類共有の財産・21世紀を切り拓く情報として、全国・世界に発信します。

やおよろず  
世界八百万委員会  
委員長 千家 尊祐  
副委員長 下村 澄  
副委員長 小松 昭夫

## 日程

- 9:30 開会
- 9:45 宮下富実夫 心と体をいやすやすらぎのメッセージ
- 10:40 基調講演① 草柳大蔵
- 12:00 昼食
- 13:00 基調講演② 久司道夫
- 14:30 パネルディスカッション  
コーディネーター  
下村 澄  
パネラー  
朴 熙澤  
望月 照彦  
久司アベリーヌ偕子  
中村 豊秀  
小松 昭夫
- 16:00 分科会  
1.人と心とテクノロジー  
講師／下村 澄、中村豊秀、植原紘治、  
朴 熙澤、小松昭夫 他  
2.人と水とテクノロジー  
講師／橋谷 博、岸 博 他  
3.人と食とテクノロジー  
講師／久司道夫、久司アベリーヌ偕子 他  
4.人と街とテクノロジー  
講師／望月照彦、首藤健次、武原誠郎 他
- 18:30 世界への提言  
パーティ
- 20:00 夜楽

## 心と体をいやすやすらぎのメッセージ



# 宮下富実夫

### プロフィール

1949年1月6日、長野生まれ。音楽家・ミュージックセラピスト。日本のヒーリングミュージックの第一人者。1965年より音楽活動を開始。プログレッシブロックグループ「ファーイーストファミリーバンド」を主宰し、国内を始め欧米でのツアー、レコード発売をいち早く手がける。1977年アメリカに永住し、その頃中国の五行説、インド医学等の東洋思想・医学に学び、シンセサイザーを使ったミュージックセラピー(音楽療法)の研究を始める。1981年に帰国し、信州飯綱高原に琵琶スタジオを設立。その後、精神と肉体の解放をテーマに数々のヒーリングミュージック作品を発表。多くの音楽療法実績を残す。代表作「瞑想」は50万枚のロングセラー。現在、全国各地でのヒーリング・コンサート、伊勢神宮などでの奉納演奏、ワークショップ、講演を行い、多彩な活動を続ける。

〈CDリリース〉「天使のいやし」「天使のささやき」「天使のよろこび」他多数  
〈著書〉「天使のいやし」

## 基調講演①

# 草柳大蔵

テーマ

## 現代文明の転換点と出雲阿国

### 講演内容

#### 1) 現代文明は何を産んだか

- (a) 地球が50億年かかって固定したエントロピーを100年で壊してしまった。
- (b) 文明生活を享受する人(便益性・快適性)は地球人口の1%である。
- (c) 専門化・分化による進展が統合性の視点を失わせた

《例》抗ガン医療の発達の隣りでガンをつくる生活の進展

#### 2) 次の文明は〈知識〉の積み重ねではなく〈知恵〉の再生産である

- (a) 本阿弥光悦・俵屋宗達は、なぜ民衆文化を形成できたか  
  
（王朝文化・貴族文化は中国文化のcopyだった。）
- (b) 知識とは、もともと聖と人を結ぶという言葉だった（カルヤーナ・ミトナ）  
  
その場合の知識とは自然の原理を素直に読みとる知恵のことである。
- (c) 出雲阿国に代表される〈パラダイムー枠組み〉の外にいる人。  
  
パソコン・ソフトを作った人々は、ほとんどヒッピーという〈文明の反乱者〉である。

#### 3) 「出雲」を、もう一度新しいパラダイムの雲の立つ拠点にしよう。



### プロフィール

1924年 横浜市生まれ  
1948年 東大法学部政治学科卒業以後、雑誌編集者、ラジオ脚本家・  
サンケイ新聞経済部記者、大宅壮一氏秘書を経験  
1959年 独立・フリーランサーとなる

#### 【受賞】

1967年 「現代王国論」で文芸春秋読者賞  
1984年 NHK放送文化賞  
1988年 全国放送番組愛好者連盟賞

#### 【役職】

放送番組向上協議会副委員長、広島県立大学客員教授(社会学)日本放送協会経営委員会委員、東北芸術工科大学客員教授

#### 〈主な著書〉

「企業王国論」・「日本解体」・「日本らしさの新段階」  
「ものを見る眼・仕事をする眼」  
「あなたの“死にがい”は何ですか」  
「草柳大蔵の礼儀と作法」  
「昭和天皇と秋刀魚」他多数。

---

## 基調講演②

# 久司道夫

テーマ  
**健康と平和な新しい世界の出発**  
——出雲から全世界へ——



### プロフィール

1926年和歌山生まれ・東大法学部・同大学院卒業。在学中、国際法の研究から当時、世界政府運動を展開中の桜沢如一に出会う。桜沢の説く東洋哲学「宇宙の秩序」の思想に共鳴、桜沢塾に学ぶ。その後渡米してコロンビア大学に学ぶ。以来、今日までほぼ45年間にわたり、北米・南米・ヨーロッパ・極東と広汎に東洋の医学・哲学・文化を説きマクロビオティックのセミナー・公演を通じて活発な運動を続け、多くの支持者を集めてきた。また1978年には国連本部において公演を行う。現在はアメリカのボストンに本拠をおき、教育・文化機関である「イースト・ウエスト・ファウンデーション」の会長や「クシ・インスティチュート」の院長などを努める。著書に「マクロビオティック健康法」「マクロビオティック食事法」(日貿出版社)など多数。共に運動を進めてきた、偕子アベリーヌ夫人は島根県横田出身。※マクロビオティック……宇宙の秩序にのっとった生き方／大自然と共に生きる生活法及び食事法

---

## パネルディスカッション

テーマ  
新しいルールに基づく  
世界との共生・競争を目指して



コーディネーター  
**下村 澄** プロフィール

1929年 佐賀県生まれ  
1953年 早稲田大学政治経済学部卒業  
1956年 大阪テレビ放送入社  
1958年 毎日放送移籍入社、報道部ニュースセンター課長、秘書部長、  
社長室局次長、日中ビデオネットワーク取締役  
1987年 社団法人ニュービジネス協議会専務理事  
1993年 社団法人ニュービジネス協議会理事相談役  
1994年 社団法人ニュービジネス協議会相談役  
・現在の主な仕事 役職名  
ヤオハンCBCC理事  
社団法人ニュービジネス協議会相談役  
株式会社ビジネス情報センター代表取締役  
・社会的活動状況  
日本記者クラブ会員、日本ペンクラブ会員  
230を越える勉強会の横断的組織「知恵の輪」代表。

〈主な著書〉  
「人脈」のつくり方(PHP研究所)  
「人脈」を広げる55の鉄則(PHP研究所)  
人間の品格～安岡正篤先生から学んだこと～(大和出版)  
人物の条件～安岡正篤先生から学んだこと～(大和出版)  
「運命」と「立命」の人間学～安岡正篤先生から学んだこと～(大和出版)  
人脈づくり成功への道標(タナベ経営)  
中村天風・安岡正篤に学ぶ成功への鉄則(曜曜社出版)、他多数。

# パネラープロフィール



## ●望月照彦

多摩大学教授。シンクタンク(株)カル・コーポレーション代表。望月照彦都市建築研究所代表。神奈川県商業ルネサンス推進委員会座長。東京都地域産業ビジョン委員等、政府・地方自治体の各種委員を歴任。

### 〈主な著書〉

- マチノロジー 〈街の文化学〉(創世記)
- コンベンション・ビジネス(ダイヤモンド社)
- ベンチャー・マーチャント(日本経済新聞社)
- 地域創造と産業・文化政策(ぎょうせい)
- 第5次産業(アイペックプレス)
- 都市民俗学講座全五巻(未来社)他、編著・共著多数。



## ●小松昭夫

小松電機産業株式会社 代表取締役社長。1944年4月生まれ。1963年島根県立松江工業高校機械科卒業。同年佐藤造機(現在・三菱農機)入社。中央研究所で設計に従事。1973年小松産業を創業。1979年小松電機産業株式会社を設立。1989年協同組合テクノくにびきを設立。これまでに中小企業研究センター賞・ニュービジネス協議会会長賞・日刊工業新聞社優秀経営社顕彰地域社会貢献者賞を受賞。本年、科学技術庁注目発明選定証受証。



## ●久司アベリーヌ偕子

夫久司道夫と共に北米・南米・ヨーロッパ・極東と、広汎に東洋の医学・哲学・文化を説き、マクロビオティックのセミナー・講演を通じて、平和なひとつの世界の実現をめざしている。



## ●朴熙澤

1921年6月21日生まれ73才、本籍地 釜山直轄市釜山鎮区 戯蛮洞227、現住所 出雲市大津町2109-2、在日本韓国民団 島根県地方本部 団長、大韓民国平和統一政策諮問委員、島根県日韓親善協会連合会 副会長

### [経歴]

- 1962年 在日本韓国居留民団島根県地方本部団長、議長等を歴任し、現在に至る。
- 1981年 大韓民国平和統一政策諮問委員に就任、現在に至る。
- 1967年 島根県日韓親善協会設立時より、理事・副会長を歴任し、現在に至る。

### [主な受賞]

- 1983年 大韓民国政府より国民勲章冬柏章受賞(勲三等)
- 1989年 島根県知事より表彰(国際親善)
- 1986年 出雲市長より表彰(国際親善)
- 1988年 大田市長より表彰(国際親善)
- 1988年 浜田市長より感謝状(国際親善)
- 1990年 浜田市長より感謝状(国際親善)



## ●中村豊秀

昭和4年上海生まれ。専修大学卒。(有)ヒューマンコミュニケーションセンター取締役所長。繊維商社の営業マンとして17年間勤務。昭和39年より江木武彦先生の言論科学振興協会に学び各企業の委託を受けて社員教育に携わる。独立後、「脳力開発」をパソコンと企業運営、セールス、自己啓発などとの一体化に取り組み成果を上げている。

### 〈主な著書〉

- 「知的セールス話法100のヒント」(こう書房)
- 魅力ある人間関係をつくる話し方(竹井出版)他。

## 座長プロフィール

### 分科会

#### 信頼と絆 第1分科会 人と心とテクノロジー

●メッセ国際会議場  
座長／小松昭夫  
講師／朴熙澤、下村澄、中村豊秀、植原紘治 他

#### みずから自然を知る 第2分科会 人と水とテクノロジー

●メッセ601会議室  
座長／橋谷博  
話題提供者／佐野茂 元鳥取県水産試験場境港分場長技術士  
木村俊博 HNS研究所元島根県環境保全課長  
石飛裕 島根県衛生公害研究所  
中西正己 京都大学生態学研究センター教授  
岸博 農村環境研究会  
召古裕二 日本ミクニヤ株式会社(環境調査)

#### 食糧と生命の継続性を維持する為に 第3分科会 人と食とテクノロジー

●東急イン芙蓉の間  
座長／井上裕義  
講師／久司道夫、久司アベリーヌ偕子 他

#### 志の育つ街、集まる街 第4分科会 人と街とテクノロジー

●東急イン羽衣の間  
座長／望月照彦  
講師／首藤健次、武原誠郎 他



●橋谷 博

1930年、京都市生まれ(本籍、鳥取県)。立命館大学卒業。1982年、日本原子力研究所主任研究員から、1982年、島根大学理学部教授に転職。1994年、同大学退官後、気象湖沼研究室を創設。大学在任中から宍道湖・中海を多角的に調査研究し、行政・市民とも深く交流する。潜水することから源五郎と呼ばれている。琵琶湖の環境研究にも携わる。



●井上裕義

島根県仁多郡仁多町下阿井1430-2  
昭和28年10月6日生  
昭和52年3月 山口大学経済学部卒業  
昭和52年4月 日本新薬(株)入社  
昭和54年3月 同社退社  
昭和54年4月 (有)井上醤油店入社  
平成2年4月 (株)風土プラン設立  
現在に至る  
日本の伝統食、醤油を通じ食を追求。  
“食べて生命を頂く”という原点に返り、より生命力ある食品づくりを原料生産から一貫して行っています。

# 分科会コメントーター профиль



## ●植原 紘治

昭和15年、新潟県生まれ  
県立高崎高等学校卒業  
芝浦工業大学中退  
昭和51年、JAC日本自動車整備 設立  
昭和61年、隗塾 開設  
昭和63年、日本サイ科学会長 関 英男先生と共に  
“加速学園”を設立  
現在に至る



## ●首篠健次

株式会社マザーズシステム・ジャパン勤務1948年(昭和23年)1月5日大分県臼杵市生まれ、1974年、九州大学工業部卒業、同年、カヤバ工業株式会社に入社、システム機械の開発に取り組む、1977年、日本共同企画株式会社に入社、建築設計事務所、海外旅行会社、コンサルティング等の会社役員を歴任。1984年、横浜電子工業株式会社に取締役として入社。専務取締役を経て、1988年、代表取締役社長に就任、同年9月、株式会社マザーズシステム・ジャパンを設立、代表取締役社長に就任、1992年、NOW1 Recording Systems, Inc.をニューヨークに設立、代表取締役会長に就任。

- ・(社) ニュービジネス協議会(NBC)
- ・ニュービジネス支援事業委員会副委員長
- ・(財) ベンチャーエンタープライズセンター(VEC)  
企画委員会委員



## ●岸 博

1936年東京生まれ、東邦大学医学部中退、東京大学宇井研究室で公害問題を学ぶ「微生物による脱窒素反応の自動制御理論」を研究し、1975年、宇井とともに農村環境研究会を主宰する。「低負荷・半回分活性汚泥法」による複合ラグーン自動制御法を提唱し、1982年、日本建築センター[建設大臣認定]による複合ラグーン方式合併型し尿浄化槽の型式を取得し、1989年、厚生省、一般廃棄物処理[し尿]の指針外評定をうる。1988年、古川沼有害底質[ヘドロ]遷移処理試験を行い、1989年、中華民国台湾における水庫の調査を行い、清澄湖の有害底質処理計画、水道原水の脱窒素計画を作成した。1990年、琵琶湖保全技術公募に入選、実地試験を行い、1991年、第15回日米専門者会議で「バイオリアクターによる有害底質処理、湖沼の直接浄化法」を発表する。



## ●武原誠郎

昭和13年、兵庫県に生まれる、昭和35年、明治大学商学部卒業、カルフォルニア大学留学、昭和42年、イムカ株式会社設立 代表取締役、現在に至る。

- イムカ株式会社概要  
昭和42年以来、3,000社に14,000人の転職成功者生んできた日本で最大手の労働大臣認可の人材紹介コンサルティング会社。  
社は「無から有を生む」—「人材は日本の資産」という使命の下に、人と企業の幸福づくりの為に活動中であります。
- ・社員、コンサルタント50人
- ・資本金8,000万円
- 日米間に2組の姉妹都市提携を斡旋  
・三木市(兵庫県)－バイセリア(カルフォルニア)  
・小野市(兵庫県)－リンゼイ(カルフォルニア)
- 東京経済同友会、新橋ロータリークラブ会員